

小中学校における交通環境学習の取組 -平成23年度の自治体支援および学校支援での成果-

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 岡本英晃

交通エコロジー・モビリティ財団の交通環境学習にかかわる活動

学校教育における交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)の普及促進を行い、環境負荷に配慮した交通行動の推進に結びつけることを目的として、下記の活動に取り組んでいます。

1-自治体支援

2-学校への直接支援

3-普及ツールの作成

4-その他

自治体支援

自治体に対して、ノウハウの提供や資金面での支援を行い、小中学校における交通環境学習を継続的に実施される仕組み、体制を構築することを目的として実施。

●支援自治体

- 御嵩町(20年度～23年度)
 - 富山市(23年度～)
 - 京都府(23年度～)
 - 札幌市(23年度～)
- (仙台市にも22年度から支援を行っているが、23年度は支援を中断)

●御嵩町での4年間の取組成果

町内全小中学校(小学校3校、中学校3校)で取り組みを行い、今後の指針となる御嵩町版「交通・環境学習」実施要領を作成。

24年度以降は実施要領を基に、町単独で継続して実施する。

小学生から中学生と継続して取り組むことで、小学校での学習内容を再確認するとともに、より知識を深めることができた



小学5年生で学習(21年度)



中学1年生で学習(23年度)

学校への直接支援

交通環境学習の実施に意欲的な学校や教員への支援を行い、実施校の拡大を図るとともに、新たな教材やカリキュラムの開発を目的として実施。

22年度は5校、23年度は6校を支援。

●支援内容

- (1)支援対象者:小・中学校
- (2)支援内容:①支援対象経費(1校につき、上限15万円)
●講師への謝金・交通費、印刷製本費、資料等の購入費用等の実施費用
- ②支援期間:1年間



草加市立川柳小学校



吉川市立中曽根小学校

●23年度支援校の実施概要

学校名	慶応義塾普通部	越谷市立大沢北小学校	吉川市立中曽根小学校	草加市立川柳小学校	出雲市立国富小学校	北広島市立緑陽中学校
テーマ	駅前商店街の自転車交通量と大気汚染の関係を調べる	多様な視点で社会問題を考える授業を目指して	子どもや高齢者の立場に立った交通街づくりについて考える授業を目指して	地域の緊急車両を扱った社会的ジレンマの解決を目指した交通環境学習の実践開発	一畑電鉄今昔物語	車社会における私たちの生活と未来
教科	選択授業	社会科	社会科	社会科	社会科 総合的な学習の時間	道徳
時数	4時限	7時限	8時限	10時間	24時限	7時限
学年	中学2、3年生	小学6年生	小学6年生	小学4年生	小学4年生	全年

普及ツールの作成

- 事例集の発行
- 教育宣言「モビリティ・マネジメント教育のすすめ」の発行
- 書籍「モビリティ・マネジメント教育」の出版
- 教材「エコモ環境BOOK」の発行



事例集



教育宣言



書籍



エコモ環境BOOK

その他

- 交通環境学習ポータルサイトの運営

<http://www.mm-education.jp>

- 支援自治体や学校の実践例等を掲載

- メールマガジンの配信



公益財団法人
交通エコロジー・モビリティ財団
Foundation for Promoting Personal Mobility and Ecological Transportation